

2019年度 自己評価結果報告書

—教職員編—

1 本園の教育目標

一 心豊かな思いやりのある子どもに

二 自ら考え、自ら決め、進んで行う子どもに

◎明るく潤いのある子ども ◎思いきり遊べる子ども ◎話をしっかり聴く子ども ◎調べたり、試したり、工夫する子ども

- 1 人との関わりを通して、基本的な生活習慣・態度及び健全な心身を育成することの必要性に気付き、自ら進んでその態度・意識を高めようとする意欲を育む。
- 2 自己発揮と自己抑制との豊かな調和がとれた自律性を養う。活動と休息、開放感と緊張感、動と静などの調和を保った健康的な生活リズムを保障する。
- 3 自然と豊かに関わることを通して、その不思議さ等に気付いたり、科学的認識を高めたり、昆虫などの生命ある小さきものをいとおしむ態度を培う。
- 4 心の働きの表れである『ことば』を大切にし、喜んで話したり、聞いたりする態度を養う。
- 5 多様な感動体験を伴う生活を通して、より豊かな感性を培い、創造する力、想像する力を豊かに育む。

2 本年度の重点評価項目、評価結果、取組・達成状況

重点評価項目		評価結果	取組達成状況
分類	内容		
保育の 計画性	3歳4歳5歳の連続性を重視し、子どもの成長発達に役立たせるために、前年度の担任と話し合う機会をパターン化させる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の担任と話し合う機会はパターン化され、3歳4歳5歳の連続性を重視し、子ども達の成長発達に生かせるように話し合ってきた。この項目については十分に達成されている。今後も積極的に話し合う時間を作り、内容を工夫し、深めていく。 ・人の話を聴くことについては、各年齢に応じた関わりを心掛けてきた。『話を聴く』ことの自立として、『話を聴く』『考える』『自身の意見を相手に伝える』ことが大切であるとする。教師は分かりやすい話し方や内容を心掛け、子どもたち自身が考えて進められるように話し手の工夫も重要である。今後も、活動への期待や様々な経験の積み重ね、話を聴いてもらえる心地良さや相手を受け入れる気持ち、自分達で考えて解決していくこと等、日常の関わりを丁寧に行い、自立的態度化を求めたい。 ・指導計画は、子どもたちの興味関心を基に、遊びが充実する様に工夫してきた。発達段階や子どもの実態に合わせた保育の展開が重要であり、子どもの姿を丁寧に読み取りながら保育を組み立てていくことを大切にしてきた。今後も、子どもたちの生活が豊かになるように、興味のある遊びや子どもが求めているものを受け止め、教材研究を進めていく。また、日々の保育を振り返り、検証すると共に、一人ひとりの姿や特徴を捉え、必要な個別の指導計画を作成し、見通しを持った保育を進めていきたい。 ・行事については、子どもたちの成長に合わせた目標を持って取り組むことが出来た。今後も様々な子どもたちに対応できるような日々の保育・行事のあり方を考えていきたい。また、子どもたちが心動かされるような保育実践を目指し、行事に繋げていきたい。
	人の話を聴くということの自立については、多少制約されつつも集団の中の一員としての自覚を持つよう導き、教師の指示ではなく、子ども自身の必要感に裏打ちされた自立的態度化を求めて日々子どもたちと接している。	A	
	指導計画は、自己発揮と自己抑制との豊かな調和がとれた自律性を養う保育を心掛け、幼児の生活が豊かになることを目標とし、幼児が主体的に関わり、安定して遊び込める環境を活動の展開に応じて再構成している。行事は、幼児の実態に合わせて見通しを持って取り組んでいる。これからも、実際の子どもの姿を十分に見つめながら、互いに見通しを持った保育が展開出来るよう、共通理解を深めていきたい。	A	

保育の在り 方 幼児への 対応	ひとりひとりのありのままの姿を受け入れ、幼児の気持ちに共感しながら“個と集団”の関係を常に考慮し、発達段階や個の特性に応じた、見通しのあるかかわりをしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達のありのままの姿を受け止め、一人一人が安心して自己発揮できるように関わってきた。 教師は今必要なことを見極めながら、発達段階や個々の特性を生かし、保育を検討し、実践できるように進めていきたい。さらに個別指導計画など担任が作成し教職員間の意見を参考にしながら、子どもが伸び伸びと楽しく生活できるように個々に応じた見通しのある関わりを目指していきたい。
	他のクラスや異年齢の幼児と関わられるよう、様々な保育の形態を取り入れ、指導上配慮を必要とする園児については特に情報の交換を密接にし、共通理解をもって対応している。	B	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢での関わりについては、朝の遊びなどで自然に関わることができた。年下の友達は年長児の優しさを感じ、活動する姿に憧れを抱いた。年長児は年下の友達を思う気持ちが育まれてきた。 今後はさらに、保育計画の中に様々な形態を取り入れ教職員間で声を掛け合いより多くの関わりが持てるようにしていきたい。 指導上配慮を必要とする園児については、情報の交換を密接にし、教職員間での共通理解・共通認識を深め家庭や専門機関との連携を持ち対応してきた。これからも、実践を基に早期対応ができるよう検討していきたい。

研 修 と 研 究	<p>人間形成のために、本園の教育目標Ⅱ『自ら考え、自ら決め、進んで行う子どもに』を重視し、“幼児一人ひとりが人間として命を大事にして生きていくこと”と“自分に対して誠実に生きること”ということを願い、遠い将来を見通した幼児教育を目指している。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標を重視し、子ども達一人ひとりの思いに向き合い共感し、安心して過ごせるように関わってきた。ありのままの姿を受け止め、寄り添う事で一人ひとりが自分らしさを発揮することが出来た。子ども達と対話することを大事にし、周囲に広がる世界に興味や関心を持ち自ら面白さを見つけ出す事が出来るように関わってきた。今後も子どもの幸せを願い、将来を見通した幼児教育を目指していきたい。 ・友達同士のつながりの中で思いやりの気持ちを抱き、友達に寄り添う姿が見られた。今後も一人ひとりがかけがえのない存在として尊重し、そのことが友達を大切に思う姿に繋がっていくよう援助していきたい。
	<p>協同性と表現を大きな柱とし、保育を進める上で科学的な考察、実践的な考察を有機的に結合させていく。これは、子どもの発達の見通しや家庭や小学校との連携においてもこの視点で伝えていく。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育の中で子どもと共感し様々な遊びが生まれた。その中で協同性が育まれ、一人ひとりが自信を持って表現する事が出来た。これからも日々の保育を振り返り記録し、感性を磨き実践していきたい。 ・今年度は各学年で研究課題を定め取り組んできた。また大学から講師を招き、それぞれの学年の実践例を基に話し合いを進め、自らの保育を振り返り実践に繋いでいくことが出来た。これからも教職員間での話し合いを深め、それぞれの特性を生かした同僚性を磨き、保育の向上を目指していきたい。 ・家庭や小学校共に子どもの実際の姿を伝え、連携を持ってきた。引き続き教職員間で情報を共有し確認し合い、連携を図っていきたい。

※自己評価欄の記入方

A ; 十分に達成されている。

B ; ほとんど達成されているが、部分的に課題が積み残されている。

C ; 課題が多く積み残され、ほとんど成果が上がっていない。

3 総合評価

- ・今後の保育の計画性において、「3歳4歳5歳の連続性の重視」については、定着し継続してパターン化されている。来年度はさらに深めた話し合いを実施していく。
- ・保育の在り方幼児への対応において、指導上配慮を必要とする園児に対し丁寧に対応し取り組むことが出来た。今後も保護者との共通理解に努め、必要に応じて関係機関と連携を持ち、話し合いを継続していく。
- ・研修と研究において、講師との園内研究会を初年度として充実させることが出来た。来年度も子どもの心を探り、必要なことを見極められるように、幼児教育の重要性を確認し合い、教職員一人一人が自立を目指したい。保育を進める上で科学的実践的に考察し、記録を重視していく。
- ・今年度はマネジメント研修を受講した教職員のアドバイスを基に、放課後の時間を充実させることが出来た。水曜日の職員会議は事前に原案を配付したことにより会議時間の短縮に繋がった。水曜日以外は全て学年、個人の時間として保育の振り返りや保育計画・準備等にゆとりをもって取り組むことが出来た。その時間を利用して担任・副担任の意見交換やアドバイスを受ける等、同僚性を生かし安定した保育に繋がった。今年度も継続していく。
- ・今後取り組む内容として、保育の計画性、幼児への対応において、「指導上配慮を必要とする園児についての個別支援計画」を作成する。このことは計画的に取り入れていきたい。担任が作成し園内で話し合い共通理解の基で担任を支援していく。さらに毎年作成する「年間指導計画」の内容について「ねらい・指導上の重点等」は丁寧に見直し、具体的内容に関しては園児の姿に柔軟に対応しながら月毎の生活・週日案に記載し、必要に応じて改善していく。
- ・3月、新型コロナウイルスの影響のために教育活動が実施出来なかった。しかし卒園式・終業式は縮小し最善を尽くすことが出来たことは幸いであった。これからさらに園児の安全と安心を第一に考慮し対応していかなければならない。今後の保育活動については、必要な情報を収集し慎重に協議し進めていきたい。

